

コロナ禍における A 特別支援学校 の進路指導の現状と課題

- 矢野川 祥典（福山平成大学福祉健康学部）
- 濱村 毅（高知大学教育学部附属特別支援学校）
- 石山 貴章（高知県立大学地域教育研究センター）

1 問題と目的

- 某特別支援学校(以下、「A校」という)は知的障害を主な対象とする学校、小・中・高等部の児童生徒在籍。
- 今年、新型コロナウイルスの影響で前期(5月)の現場実習(以下、「実習」という)は実施時期を延期(6月)。
- 一般就労を目指す生徒の進路指導に関して、進路担当者の負担増している。
- 筆者はA校の進路担当を2018年度まで勤め、現在の進路担当者との連携により情報収集に努めている。
- **進路担当者への調査から、コロナ禍における進路指導の現状と課題**について検討することを目的とする。

2 調査方法

(1) 調査概要

- 2020年7月～8月調査実施。A特別支援学校の進路担当者に質問紙を電子メールにより送付、回答を得た
- 回答を踏まえ電話によるインタビュー調査、詳細確認。

(2) 調査対象

- A特別支援学校在籍の高等部3年生を中心に2年生、1年生、中学部3年生を対象とした。

(3) 倫理的配慮

- 本研究の計画及び発表における倫理的配慮について、A特別支援学校副校長の確認の上、実施。

3 結果と考察

(1)当初予定の現場実習期間及び実際の実習実施期間

- 当初予定の実習期間と併せ、コロナ禍で変更後の実習期間を示す。

表1 予定の現場実習期間及び実際の実習期間

学 年	予定の実習期間	実際の実習期間
高3年	5月18日～6月5日	6月8日～6月26日
高2年	5月19日～6月5日	6月9日～6月26日

- 高等部は例年、前期と後期、現場実習を実施。
- ※高等部1年は実態など考慮し、前期実習はない。
- 前期実習は実施危ぶまれたが、開始3週遅らせ実施。

(2) 実習先選定及び実習実施での困り事等

実習実施及び実習先選定における、進路担当者の困り事について、その回答から示す(要約)。

ア コロナ感染拡大防止で2月から休校となり、学校の授業再開が5月末となった。生徒の生活リズムや心身のコンディションを整えることが大変だった。

イ コロナ禍により、工場の作業量が通常通りは見込めないとの理由で、実習受け入れを断られた。

ウ 感染拡大防止のため、人との接触が多い企業からは実習受け入れを断られた。

エ 高3生の9月実習先は確保しているが、コロナ禍で進路決定に至るまでの連携と連絡調整に、不安を感じる。

オ 休校期間や各行事の中止など、例年とは異なる学校教育を展開する折、生徒自身の心身の成長も進路指導を行う上で課題となっている。

進路担当者の回答から考察

- 生徒の心身の成長を促してこそ、進路指導に臨める。中学部から高等部の思春期、生徒は心身ともに成長。成長期、成功体験を積み重ねられるように、心身ともに寄り添い支えているのが、特別支援学校の教師。
- 実習前の期間は、進路学習等で「報告・連絡・相談」や意思表示のスキル等、職業遂行上、大事なコミュニケーション能力の向上を図る。
- 実習前の進路学習は生徒のキャリア教育、キャリア発達の視点からも、重要な進路指導の一つ。
- この時間確保が脅かされたことは、進路担当者として不安が募る実習前指導であったと思われる。

表2 9月現場実習期間及び10月・11月現場実習期間

学年	予定の実習期間
高等部3年	9月2日～9月25日(4週間)
高等部2年	10月26日～11月20日(4週間)
高等部1年	11月4日～11月20日(3週間)
中学部3年	11月5日～11月20日(3週間)

- 9月以降、高等部2年,1年,中学部3年の実習実施。
- A特別支援学校の特色：中3年から実習実施⇒確実に成功体験することを念頭に置き、早めの実習開始。
- 実習実施できるか否か、例年とは異なる不安要素を進路担当者は抱え、調整を続けている。

4 課題と展望

- 実習先の産業種や業務で、選択肢の狭まりを危惧。
- 企業側はコロナ感染防止は死活問題。実習生など外部の人間の出入り抑えるのは致し方ない。
- コロナ禍の対応長期化すれば、高等部3年生の卒業後の進路に影響を及ぼす可能性。
- 2年生や1年生も、来年度以降の職業の選択肢が限定される等の影響が出る可能性も。

生徒が生まれ育った地域で一般就労を 果たす意味

- 障害者の地域社会への参加、地域で共に生きる、
ノーマライゼーションの理念、広げる意味あり。
- 職業選択や働き方等、**ダイバーシティ(多様性)**、
インクルージョン(包括)を意識した職業自立、
社会参加を推進する意味あり。

- 主体的で対話的な進路学習重ね、個々の実態に応じた深い学びを得ること、**アクティブラーニング**によるキャリア教育及びキャリア発達の継続的な推進、特別支援学校は求められる。
- その前提の実習がコロナ禍で揺らぐことがないよう、地域社会全体で障害者の職業自立の意義を理解し支え、**当たり前**の生活を保障、新たに創造したい。